

事業名称	倉敷美観地区・MUSEUMクラスター形成事業		
実行委員会	倉敷美観地区・MUSEUM連携事業実行委員会		
中核館	公益財団法人 大原美術館		
	住所	〒710-8575 岡山県倉敷市中央 1-1-15	
	TEL	086-422-0005	FAX 086-427-3677
	ホームページ	<a href="http://www.ohara.or.jp/201001/jp/index.html">http://www.ohara.or.jp/201001/jp/index.html</a>	
構成団体	公益財団法人 倉敷民芸館、公益財団法人倉敷考古館 倉敷商工会議所、公益社団法人倉敷観光コンベンションビューロー		
事業開始時点の課題分析	<p>岡山県倉敷市の中心市街地に広がる倉敷美観地区は、江戸時代よりの街並みを守り伝え、国の重要伝統的建造群保存地区にも指定されている。この美観地区内には、大原美術館、倉敷民芸館、倉敷考古館の3つの公益財団法人格を有する美術館、博物館施設が半径50mほどの距離に近接して存在する。</p> <p>もっとも、3館の所蔵品や組織規模の差異もあり、必ずしもその連携は緊密なものではない。また、倉敷民芸館、倉敷考古館の経営基盤の弱さや、それに伴う職員数の不十分さもあって、その所蔵品や蔵造りの建築的資源をユニークベニューとして有効活用できていない。大原美術館も、1930年創立以来の歴史の積み重ねをもとにした積極的な活動を展開しているが、施設の老朽化に伴う支出の増大や、倉敷市への観光客の入込数の伸び悩みに伴い、十分な資金調達が出来ていない状況でもある。</p> <p>このように、各館、さらには倉敷美観地区が抱えている高いポテンシャルを十全に活用するという点、特に増加する訪日外国人客に対する観光資源としての投資が充分には行えていない現状である。</p>		
事業目的	<p>本事業により、「大原美術館」「倉敷民芸館」「倉敷考古館」、さらに2018年に一般公開を始めた国指定重要文化財にも登録されている「語らい座 大原本邸」等が、オペレーションレベルのみならず、設置者レベルからのより強力な連携体制を構築する。そのことによって、各施設が抱える所蔵品、建築的資源を十分に生かすことで、地域社会へのより一層の貢献、および広域観光資源としての磨き上げを行う。</p> <p>具体的には、増加する訪日外国人客に対して、事前の情報提供となるWEBサイトから、到着時に現地での情報提示ツールとなる掲示物、配布物にまでおよぶ、多様なメディアを多言語による統一したものとして構築する。また、日本国内外からの観光客に対して、各館の建築、所蔵品を活用した良質なアクティビティ提供を行う。</p> <p>同時に、近隣住民には、シビックプライドの醸成を加速させるための施策を行う。さらに、この3館がハブとなり、岡山県域の複数大学との協同を行うことで、本事業の主旨となる活動の継続性を担保するための人材育成を目指す。</p> <p>以上のとおり、本事業においては、「訪日観光客向けの多言語による情報提供環境の構築」、「ユニークベニューたる各施設の建築の活用」、「近隣住民に対するシビックプライドの醸成」の3つを主目的とする。</p>		

<p>事業概要</p>	<p>「訪日観光客向けの多言語による情報提供環境の構築」については、関係施設における多言語による情報提供環境を構築する。続いては、倉敷美観地区全体を視野に置き、訪日外国人向けに地区内施設や景観についての情報提供、さらには回遊性向上を目指し、多言語表記による共通の地図や表示物を制作する。同時に5年間の継続性のうえに、海外、特に東アジア圏の現地メディアへの3館を核とした倉敷美観地区の情報発信を強化する。</p> <p>それらと同時に、「近隣在住民に対するシビックプライドの醸成」については、これまで大原美術館が先進的に培ってきた地域連携のノウハウ、およびそれに基づく事業実施のノウハウを関係組織間で共有する。これにより近隣在住者に対しては、各館より有用な教育普及コンテンツを提供し、また国内外広域からの観光客に対しては、教育、娯楽的なコンテンツを提供する。その際には、倉敷美観地区内にあるホテル、ギャラリーなどの文化、観光の諸施設との協力を行う。</p> <p>またこうした3施設間の協力体制の強化により、上記のようなノウハウの伝授、共有のみならず、MUSEUMの専門性を担保する活動ならびに、独自の活動を形成、発信する人材育成的活動を実施する。さらに人材育成という点においては、岡山県域にある複数の大学と各館がこれまで培ってきた連携を、本事業参加3館が連携しての関係告知へと再編し、大学生世代の育成にも尽力する。</p>
<p>区分</p>	<p>(1) 地域の歴史、地域の有形無形の文化財との連携、地域の人材交流</p> <p><input type="checkbox"/>ア 地域の文化財の魅力発信</p> <p><input type="checkbox"/>イ 地域の文化財を活用した多様な活動の充実</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 美術館・博物館の情報発信機能の強化</p> <p><input type="checkbox"/>エ 専門人材の育成・確保</p> <p>(2) 地域の文化施設等との連携</p> <p><input type="checkbox"/>ア 地域の文化施設との連携による面的・一体的な企画の実施</p> <p><input type="checkbox"/>イ 美術館・歴史博物館クラスター（集積地）としての広報活動</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1・地域の文化財の魅力発信</p> <p>(1) 魅力発信のための行事</p> <p>① 大原美術館 美術講座 第44回 シリーズ戦争と美術Ⅱ 東西・古今(講演1)</p> <p>② 大原美術館 高階秀爾の美術教室 第26回シリーズ 西洋美術の色(講演2)</p> <p>③ 倉敷民芸館 深沢直人講演会(講演3)</p> <p>④ 倉敷考古館 原田マハ、大原謙一郎対談(講演4)</p> <p>2・地域の文化財を活用した多様な活動の充実</p> <p>(1) 地域の祭り、伝統工芸との連携</p> <p>① 倉敷民芸館 民芸市場(民芸市場)</p> <p>② 倉敷屏風祭り 大原美術館協賛展示 秋の有隣荘特別公開 三瀬夏之介 倣玉堂(屏風祭1)</p> <p>③ 倉敷屏風祭り 倉敷考古館協賛展示 バーナード・リーチ 古代に出会う(屏風祭2)</p> <p>(2) あらゆる人々に向けた体験プログラムの提供</p> <p>① チルドレンズ・アート・ミュージアム(チルミュ)</p> <p>② 美術館探検ワークショップ 美術館子ども探検隊(WS1)</p> <p>③ 技法体験WS 蔵で極める金継(WS2)</p> <p>3・美術館・博物館の情報発信機能強化</p> <p>(1) 所蔵作品情報の多言語化</p> <p>① 情報発信媒体 多言語化リニュアル検討会議(多言語検討)</p> <p>② WEB 多言語化サイトリニュアル(WEB多言語)</p>

	<p>③ 視覚伝達系表示類 多言語化リニューアル（表示多言語化）</p> <p>4・地域の文化施設の連携強化</p> <p>(1) クラスターとしての広報活動</p> <p>① 東アジア圏向け WEB サイトへの情報発信</p> <p>② 国内向け 旅行商品造成会議への出席、情報発信</p> <p>③ 広報戦略会合</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>中核3館に、「語り座大原本邸」が中途から加わった4施設により、月2回程の3館実務者会議、2ヶ月に1回程の館長会議を実施。これにより各施設間での細やかな連絡調整が行われるようになり、実施事業が効率的、効果的なものとなった。</p> <p>具体的には、大原美術館が実施する（講演1）（講演2）へ、倉敷考古館、倉敷民芸館が参画することで得た運営ノウハウが、各館での（講演3）（講演4）に活かされ、それぞれ満席に近い集客と質の高い講演の提供に至った。またいずれも新聞での成果報道もなされるなど高い注目を集めた。</p> <p>また、本事業としての実施ではないが、7月初旬の西日本豪雨被害に対応して、平成30年8月4日（土）に4施設合同での無料開館と被災者支援への募金活動を行った。その結果、周辺施設もそれに賛同する動きを生み出した。さらには、本事業での当初計画を早め（チルミュ）において、参加者が全4施設へ無料入館を可能とすることが出来たため、大原美術館で参加登録した1,000名以上が他施設へも回遊することとなった。</p> <p>こうした堅実な成果に対して、今後の連携の体制と実施目標を明確にするため、実務者会議を通じ、4施設の基礎的な情報の可視化を行った結果、各館の資金力、マンパワー、運営実態の格差が当初予想以上に大きなものであることが明確になり、当初予定していた事業や、次年度以降の事業実施の在り方を大きく見直さざるを得なかった。</p> <p>具体的には、各館の所蔵作品のデータ把握にばらつきがあり、同様の進捗度での多言語表記が難しいことが判明。学芸員間での台帳整理やデジタルデータ化についてノウハウ共有という初期段階からの作業を行わざるを得なくなった。結果、専門家を招いての（多言語検討）や、WEBでの情報更新を目指した（WEB多言語）の推進を大きく見直すこととした。また、そうした状況に重なるように、倉敷市が推進する「日本遺産」関連の事業で、本事業関係者が目指していたクオリティーに遠く及ばぬレベルで、各施設の概要について多言語表記物などが設置されてしまったことも、本事業での（表示多言語）の進め方も見直さざるを得なくなった。</p> <p>クラスターとしての広報活動についてだが、岡山県を代表する観光地でもある倉敷美観地区に所在する施設としては、不特定多数に向けて情報を提示するだけでは集客増にはつながらないことを熟知している。それゆえ、当初申請でも旅行業社が集う商談会への参加経費を計上した。しかしながら、それがかなわなかったため、東アジア圏向けのWEBでの広報活動は実施に至ったが、その集客の成果は十分に上がったことを実感できない。</p> <p>こうした状況を踏まえて、本事業による投資を見込まずとも堅実な成果が期待できる事業に助動的に着手し、まずは大原美術館内での入館者の国別アンケート実施や、着地客の囲い込みのための商品造成を行うという自助努力をすることとした。また施設間連携としては、大原美術館へ来館する年間2万人以上の学校団体の他施設への誘導などを行うこととし、早速、次年度早々から大原美術館見学のルートの一部として、大原本邸を組み込むことなどを始めることとした。さらには、そうした相互乗り入れに対応するため、各施設が実施する研修の共有化を進め、互いのスタッフが受講し合う体制を整えた。このように本支援事業の資金を直接的に使うことはなくとも、本事業を契機とした緊密な連携が、早くもこうした成果に至っている。</p>

### 【主な事業実績】

※実施順に掲載します。

※いずれも、当該事業名でWEB検索していただくと多数の情報にアクセスできます。

#### 大原美術館 美術講座「第44回 シリーズ戦争と美術Ⅱ 東西・古今」(講演1)

実施日：平成30年7月28日(土)、29日(日)

講師：河野元昭(静嘉堂文庫美術館館長)、三浦篤(東京大学教授)、会田誠(美術家)、高階秀爾(大原美術館館長)

<http://www.ohara.or.jp/201001/jp/D/44bikou.pdf>

総参加登録者数：110名 2日間のべ参加者数210名

※29日には台風接近による警報発令および近隣地域に避難勧告が出された。



講演する会田誠氏

○来場者アンケートより

- ・歴史を学ぶ上で、高校生を対象としたこのような講座も実施して欲しい(40代男性)
- ・ぜひ「戦争と美術Ⅲ」を！(70代女性)
- ・作家と研究者が交わったプログラムが刺激的だった[70代女性]
- ・非常に有意義な2日間でした、今後も大原美術館の所蔵作品や作家に関する詳しい内容を望みます(作品の来歴、収集・経緯、保存・修復などについて)[50代女性]

#### チルドレンズ・アート・ミュージアム2019 (チルミュ)

実施日：平成30年8月25日(土)、26日(日)

総参加者数(2日間)：1,111名



200名に迫るスタッフが、開館前に高階館長と氣勢を上げる。



大原美術館各所で様々なタイプのワークショッププログラムを実施



大原本邸



倉敷考古館



倉敷民芸館

関連施設も、大原美術館でチルドレンズ・アート・ミュージアム参加登録した方は無料入館

○来場者による SNS での作品人気投票のコメントより

- ・私は、ジャクソン・ポロックの【カットアウト】が大好きです！大原美術館本館に来た時は、是非見てみてください！
- ・リキテンstein《眠りやがれ！ベイビー》幼稚園ぐらいのころ？沢田研二ファンだったので「勝手にしやがれ」の「やがれ」繋がりて印象に残ったという思い出。
- ・今日は大原美術館に来ています。草間彌生さんの作品が素敵でした。無題([http://NO. RED .Z. A.](http://NO.RED.Z.A.))

- ・三瀬夏之介 《僕の神さま》いま展示して無いですが～
- ・ギュスターヴ・モロー「雅歌」。5月に大原美術館に行きましたが、残念ながら展示室されていませんでした。次こしは展示中に行きたいと思います。
- ・突然ですが、「愛ちゃん盆栽」を思い出しました。今もあるのでしょうか。
- ・「お気に入り」というのとは少し違うのですが、高校生の頃初めて見て非常に強い衝撃を受けた作品。熊谷守一「陽の死んだ日」
- ・こんな人気投票してるんだなあ。大原美術館は何度も行ってるけど、毎回この絵はじっくり見てしまう。セガントーニの「アルプスの真昼」
- ・岡山県の大原美術館では SNS 上での人気投票をしてるようです～ホドラー「木を伐るの人」
- ・藤田嗣治「舞踏会の前」現在開催中の没後 50 年記念 藤田嗣治展に貸出中とのこと。
- ・エル・グレコ「受胎告知」、クルーベ「秋の海」これはもう殿堂入りで。
- ・パブロ・ピカソの「鳥籠」です。ピカソの絵に初めて出会ったのは、倉敷に引っ越してきた小学校の時から。抽象的すぎてインパクトがありました。描かれるいる物との繋がりは何だろうって幼少時代から不思議に思った記憶があります。
- ・私大好きなのは、児島虎次郎の“朝顔”（登録番号 4050）。暑い日射しが照り出す前の、清々しい透明感溢れる光に心、洗われるよう。ちょっと背伸びして水やりする姿も自然で、毎日の日課のよう。昨年、数十年ぶりに訪ねたら、この絵が出張中で悲しかった☹ また会いに行かなきゃ☺
- ・クールベ 秋の海。選べないよ～ と思いながら選んだ一作。表現力に絶句する。
- ・フレデリック・レオン『万有は死に帰す、されど神の愛は万有をして蘇らしめん』15～16年前に倉敷を家族で数回旅行しました。その度に大原美術館も。しばらく見惚れてしまいました。久しぶりに見たい。
- ・ジョアン・ミロ『夜のなかの女たち』絵柄がゆるい感じで可愛い☺
- ・ムンク 「マドンナ」学生時代に初めて大原美術館に行って以来ずっと記憶に残っているので。。。倉敷市民になり、近年は子どもと一緒に毎年のように行っているけど展示のタイミングと合わないのか出逢えません・・(ノノT)・・

#### 倉敷屏風祭り協賛展示 倉敷考古館 バーナード・リーチ 古代と出会うーようこそリーチ先生ー（屏風祭2）

実施日：平成 30 年 9 月 19 日（水）～11 月 9 日（金）

総入場者数：885 名

#### 倉敷考古館 原田マハ、大原謙一郎対談「リーチ先生と古代日本」（講演4） ※（屏風祭2）記念講演会

実施日：平成 30 年 11 月 4 日（日）

参加者数：100 名

<http://kurashiki-kouko.sakura.ne.jp/?p=485>



倉敷屏風祭り 協賛展示 大原美術館 平成 30 年秋の有隣荘特別公開 三瀬夏之介 倣玉堂（屏風祭 1）

実施日：平成 30 年 10 月 19 日（金）、11 月 4 日（日）

総入場者数：4,453 名



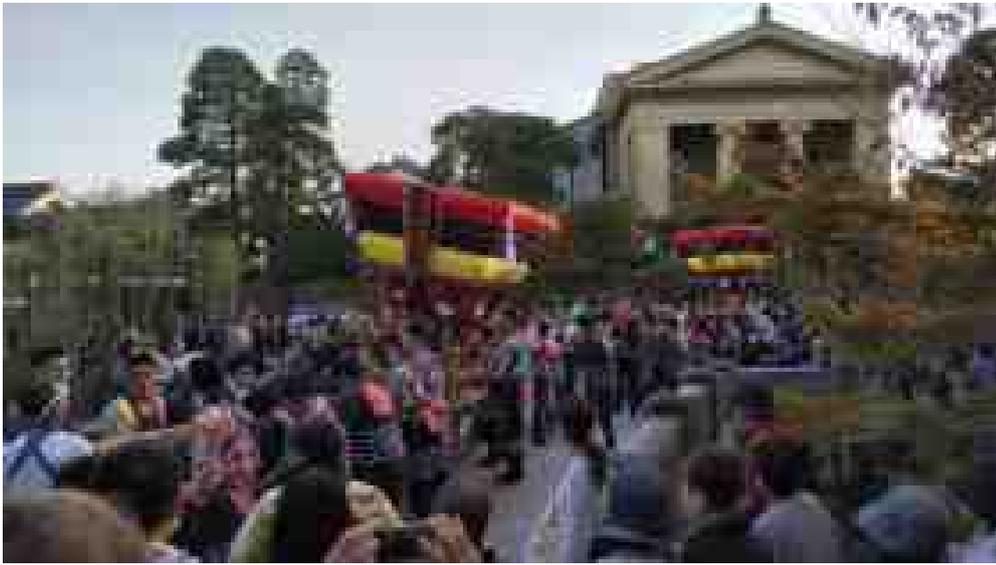
入口風景



内覧会当日 出品作家の三瀬夏之介氏を囲む観客



浦上玉堂作品と三瀬夏之介作品が対峙するように展示



平成 30 年 10 月 20 日（土）、21 日（日）開催の屏風祭りでは、会場前はこの賑わい。

**倉敷民芸館開館 70 周年記念講演会「民藝の魅力」 深沢直人講演会（講演 3）**

実施日：平成 30 年 11 月 15 日（木）

参加者数：約 400 名（定員 387 名のホールが満席で場外での立ち見も出る）

本事業としての実施ではありませんが、当該施設間の連携の成果です。

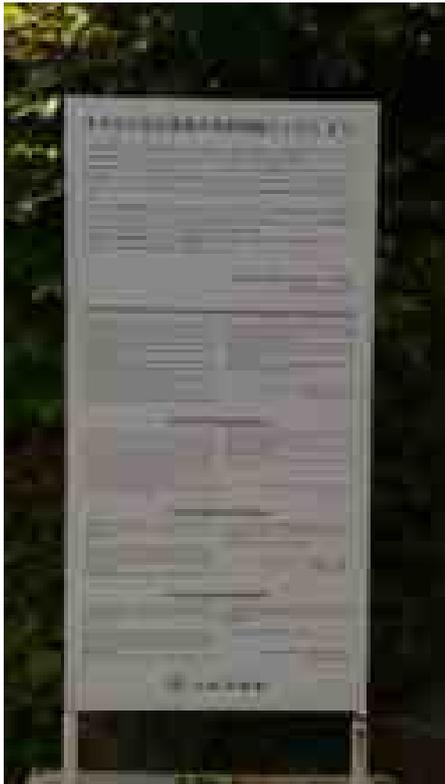
### **無料開館**

実施日：平成 30 年 8 月 4 日（土）

大原美術館での入場者数：約 4,000 名

西日本豪雨災害による、倉敷市真備町など直接的に物理的被害を受けた地域も広範にあり、また倉敷美観地区も風評により観光客が激変した。

そうした状況を前に、倉敷美観地区・MUSEUM連携事業実行委員会関係施設で急遽検討を始め、無料開館や募金活動を行うこととしたところ、倉紡記念館など周辺施設も無料開館を実施、また倉敷国際ホテルが大原美術館敷地内でのドリンクサービスなどを実施した。



趣旨説明看板



各所に募金箱



各館無料入館実施